SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

Curriculum Development Conscious of the Connection of Art in Junior High School：Focusing on the Connection of Subjects with Regionality and Traditional Culture

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2022-03-15
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 髙橋, 智子, 田丸, 光恵
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00028713

教育実践報告

美術科におけるつながりを意識したカリキュラム開発
―地域性や伝統文化を生かした題材の連動性に着目して―

髙橋　智子　田丸　光恵
静岡大学教育学部美術教育系列　焼津市立焼津中学校

Curriculum Development Conscious of the Connection of Art in Junior High School：Focusing on the Connection of Subjects with Regionality and Traditional Culture

Tomoko TAKAHASHI　Mitsue TAMARU

要旨

静岡大学教育学部附属島田中学校の美術科（以下、島田附中美術科と記す）では、2018 年から 2020 年（３年間）にわたり、教科テーマを「造形的な見方・考え方を働かせ、創造の喜びを味わう生徒の育成」とし、実践研究に取り組んできた。本研究では、「つながり」を意識した題材開発や授業づくりに着目してきた。本論では、2019 年度に実施した実践の成果と課題をもとに構想した 2020 年度の実践報告を行う（研究３年目）。地域性や伝統文化を生かした題材の実践内容を報告すると共に、その成果と課題について考察を行い、「つながり」を意識した題材開発や授業づくりの可能性について、引き続き模索する。さらに、３年間検討してきた美術科のカリキュラムの報告を行う。

キーワード：　美術科　地域　伝統文化　日本の美　題材開発

１．はじめに

2021 年に中学校で全面実施となった新学習指導要領の基盤となる考え方として「社会に開かれた教育課程」の実現が謳われている[1]。近年、これまで以上に、学校での学びと社会とのつながりの重要性が意識されており、美術科においても地域との協働の在り方が問われている。

美術科では、地域の身近なものや伝統的なものを生かした題材開発や指導の充実が指摘されている。地域の伝統的な工芸や民芸などに使用されている材料や表現技法、それに関わる人材の活用は美術の学習を深めるために重要な視点であるとされる[2]。

２．教科テーマと目的

こうした背景のもと、本研究では地域の「ひと・もの・こと」とのつながりを重視し、地域の作家や職人と連携を行いながら、伝統的な工芸などを取り上げ、積極的に題材開発や授業研究に取り組んできた[34]。島田附中美術科では、2018 年度より教科テーマを「造形的な見方・考え方を働かせ、創造の喜びを味わう生徒の育成」とし、実践研究に取り組んでいる[5]。教科で育成する資質・能力については、学習指導要領に基づき、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３つの観点を柱としている（図１）。研究では、「つながり」を意識した題材開発や授業づくりに着目している。特に「地域のひと・もの・こととのつながり」、「小学校・中学校での題材のつながり」、「中学３年間の学びのつながり」、「題材内での学びのつながり」の４点を意識し、題材や授業を構想している。

３．2018 年度及び 2019 年度の実践の成果と課題

前報[34]では、2018 年度と 2019 年度に実施した題材について、その成果と課題を報告した。研究の評価方法として、２名の生徒（当時１・２年生：生徒Ａ及び生徒Ｂ）を抽出し、実践前後の学びの分析を行うと共に、題材を実施した学年の全生徒を対象としたアンケートを実施し、その分析を行った[6]。

これまでの実践を通して、以下の成果と課題が挙げ

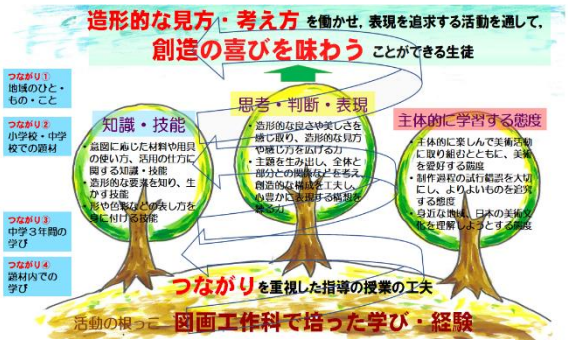


図１　本研究で育成を目指す資質・能力

られた（表１）。２年間の実践を通して、４つの「つながり」を、意図的に題材や授業過程に位置づけたことで、生徒の表現への意欲が高まったり、積極的に主題を生み出したりする姿が見られるようになってきた（「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の育成）。さらに、４つの「つながり」の重要性のみならず、３つの資質能力の育成のバランスや関連性、指導支援のあり方（対話など）の重要性も示された。

課題としては、引き続き、生徒の意欲や主題を生む題材の検討や授業過程における指導支援の工夫（個人指導や対話のあり方）などが示された。

表１　前年度までの成果と課題

成果	「地域のひと・もの・こととのつながり」を意識することで、生徒の制作への意欲や主題を生むきっかけになった。
	「中学３年間の学びのつながり」（目標や方法など）を意識することで、生徒が主題を明確に持ち、表現のねらいや内容を踏まえ、制作に臨んでいる姿が多く見られるようになった。
	表現と鑑賞の学びを意識的に相互に関連づけることで、生徒の表現への意欲が高まり、１年次に課題としてあげられていた表現における知識や技能の資質・能力の育成につながった。
	１年次からの「つながり」を重視すると共に、表現と鑑賞を相互に関連させる学習を通して、効果的に生徒の見方や感じ方を深められた。
	個人指導の重要性や対話の重要性が示された。
	主題づくりと同時に表現における知識や技能の資質・能力の必要性が示された。
課題	目的を達成するための指導支援のあり方。「対話の位置づけや方法などの検討」「個の思いを引き出し、個に合わせた指導支援の検討」「思いを引き出したり、表現への意欲を向上させたりする関わり方の検討」など。
	表現する際の知識や技能の習得のあり方
	家庭での作品鑑賞（つかう）のあり方

4. 実践の概要

本論では、これまでの実践の成果と課題をもとに構想した 2020 年度の実践報告を行う（研究３年目）。地域性や伝統文化を生かした題材（以下、本題材と記す）の実践内容を報告すると共に、その成果と課題について考察を行い、「つながり」を意識した題材開発や授業づくりの可能性を引き続き模索する。また、最後に３年間検討してきた美術科のカリキュラムの報告を行う。

（１）対象

本実践の対象は、本校の３年生である。昨年度中学２年生から進級した３年生を対象とした[7]。

（２）題材名

「おもいをあらわす水引のかたち～３年間をおもい、未来の自分をおもう～」

（３）題材について

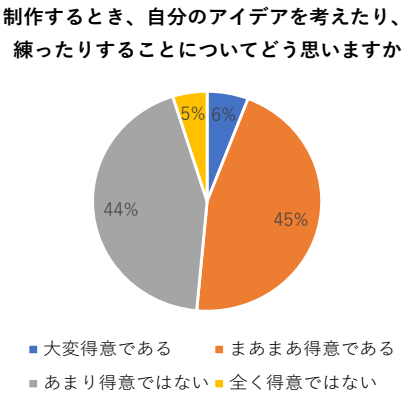
本題材は、中学３年間の結びとなる。これまでは、地域の伝統文化に関する題材を多く扱ってきたが、日本の伝統文化である水引に着目した。テーマは「３年間をおもい、未来の自分をおもう」とした。日本には、ものや形に思いを寄せて、気持ちを伝える文化がある。前学年までに取り組んだ凧や扇の題材においても、縁起を担いだり相手を思ったりする表現が込められており、美しい日本人の心が受け継がれていることを学習してきた [34]。制作過程では、水引の特性（形、色、フォルム、量感、動勢、紙の質感など）を感じながら、自分の思いを込め表したいイメージに近づけていく。

本題材で着目した水引は、洗練されてきた結びの文化として長い歴史の中で受け継がれており、日本人の大切にしてきた心細やかなコミュニケーションの一つである。水引は細い紙縒の様なものであるが、それらの形や本数、使う場などで、持つ意味が異なる。高度成長期以降、リボンの普及に伴い、水引は限られた場面でしか使用されなくなり、儀式の簡略化が進む現代では、生徒達が水引を使用する機会はますます減少すると予想される。本題材では、中学３年間の結びの題材として、水引制作を通して「美術文化の継承と創造」について考え、日本文化の良さを改めて感じる機会としたい。伝統文化は、時代とともに少しずつ形を変え、新たなものを取り入れていく。変わらない大事なことや新たな創造の可能性、３年間の思いなどを探りつつ表現させていく。制作を通して、日本の伝統文化に主体的に関わり、自分の思いを表した作品に愛着を深め大切にできる生徒の姿を目指したい。

（４）生徒の実態把握（事前アンケート）

本題材を実施前に、生徒の発想及び構想に関する実態や水引に関する実態を把握するために、事前アンケートを実施した[8]。

まず、2019 年度に引き続き、主題を生んだり練ったりする「発想及び構想」に関する生徒の実態について、調査を行った。2019 年度は、約５割の生徒が、アイデアを考えたり練ったりすることを「大変得意である」（６％）、「まあまあ得意である」（45％）と回答しており、約５割の生徒が得意であると回答した（図２：上）。1 年次から取り組んでいる「つながり」を意識した授業構想（題材開発及び研究など）を通して、主題を考え、どのような団扇にしたいのか思いを膨らめることができる生徒が増加していた。2020 年度の調査では、「アイデアを練る力はついてきたか」という問いに対して 68％（73 人）の生徒が「以前よ



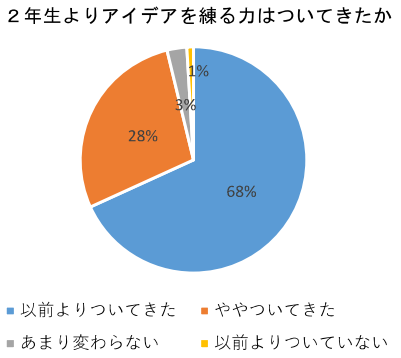


図２　発想及び構想に関する事前調査

りついてきた」と回答し、28％（30 人）の生徒が「ややついてきた」と回答した（図２：下）。９割以上の生徒が「発想及び構想」の力がついてきたと自覚している結果となった。１年次より、継続して「発想及び構想」（主題を考えるなど）に関する学習過程を重視し、重点的に指導を行ってきた成果といえよう。

次に、本題材の実施前に水引に関する生徒の実態調査も合わせて実施した。アンケートの内容は、水引に関する関心などである。まず、水引に関する興味について聞いたところ（図３）、67％（60 人）の生徒が水引に「興味がある」と回答した。また、水引の認知度について聞いたところ（図４）、42％（39 人）が「知っていた」と回答し、51％（47 人）が「見たことはあったが水引という名前を知らなかった」と回答した。名前を理解していなかった生徒もいたが、９割以上の生徒が知っている結果となった。水引を知ったきっかけは、「祝儀袋・不祝儀袋」（50 人）と最も値が高く、次いで「店頭」（46 名）、「TV」（23 名）となった。水引に関する知識（複数回答可）では、「結び方に意味がある」（56 名）、「色に意味がある」（44 名）、「本数に意味がある」（17 名）と回答があった。水引の使用方法（複数回答可）としては、「贈り物（祝儀袋・不祝儀袋）」（92 名）が最も高い値を示し、「飾り・置物、しめ飾りなど」（69 名）、「贈り物（ラッピング・包み方）」（50 名）

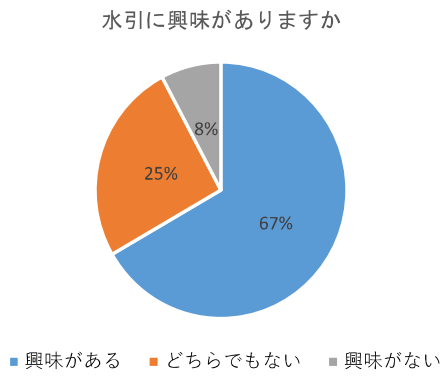


図３　水引への興味について

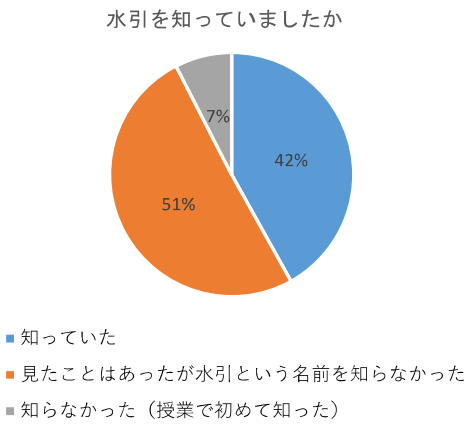


図４　水引の認知度について

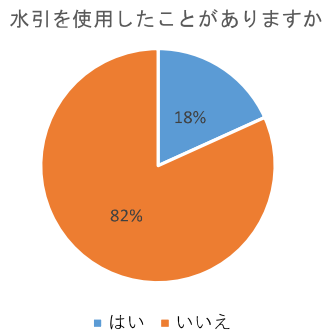


図５　水引の使用について

と続いた。

水引の使用について聞いたところ（図５）、使用したことがあるのは 18％(19 人)であり、使用用途としては「贈り物を包む」と回答した生徒が最も多かった。使用したことないのは 82％（85 人）であった。８割以上の生徒が、使用経験がない結果となった。

水引について、９割以上の生徒が知識として知っており、約７割の生徒が興味を持っている結果となった。知ったきっかけとしては、祝いなどの儀式の際、使用しているものを見たり店頭で見ていたりしていること

が多いことも分析できた。使用経験としては、少ない結果となったが、知識としては、結び方や本数、色の意味について知っている生徒が多かった。水引は結婚式や葬儀などの儀式の際、使用されることが多いため、生徒が主体となって使用する場面が少ないことが使用経験の低さにつながっていると考えられる。ただし、祝いの場面としては生徒にとって身近な誕生日なども想定されるが、そうした場面での使用経験が少ないといえる[9]。

（５）本題材で育成を目指す資質・能力

本題材で育む資質能力（題材目標）は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう人間性等」の３つの視点から、以下のように設定した。

【知識・技能】
・形や色彩、材や光などがもたらす効果や、造形的な要素などを基に、主題や美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解できる。
・水引や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追究して創造的に表すことができる。

【思考・判断・表現】
・水引の形や色彩の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。
・造形的な良さや美しさを感じ取り、心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。

【学びに向かう人間性等】
・水引の創造活動の喜びや味わい、自分の心情や未来に向けての思いを基に構想を練ったり意図に応じて工夫して表したりする表現活動に取り組むことができる。
・水引の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなど見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

（６）研究方法

本題材では、本年度も継続して「つながり」を意識した題材開発や授業づくりに取り組んだ。本研究では４つの「つながり」を重視している。４つの「つながり」の視点は、年間を通して、各題材内に組み込んでいる。以下には、本題材で意識した４つの視点について説明を行う。

１）地域のひと・もの・こととのつながり

これまで、地域の伝統文化に関する題材を多く扱ってきた。本題材では、日本の伝統文化である水引に着目し、地域から日本に視野を広げた発展的な題材とした。水引の歴史は古く、遣隋使の小野妹子が日本帰国した際、隋からの返礼品に海路の平穏を祈願した紅白の麻ひもが結んであったのが始まりと言われている。水引に色が用いられるようになったのは、室町時代で、麻の紐の代わりに紙縒に糊水を引いて乾かして固め、紅白あるいは金銀に染め分けた紙糸が使用されるようになった[10]。水引には、「未開封を保証する」「魔除け」「人と人とを結びつける」の３つの意味がある。現在は、「人と人とを結びつける」という意味合いで使われていることが多くなっている。日本では贈り物をする際、単に物を贈るだけではなく相手を思う気持ちも一緒に添えるという習慣がある。水引は、日本の慣習との関連性が強い。こうした日本のひと・もの・こととのつながりが強い本題材での学びを通して、中学を卒業後にも、創造する喜びを感じると共に、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指した。

２）小学校・中学校での題材のつながり

本題材は、造形的な見方・考え方を働かせながら主題を生み出し、形や色に自分の思いを重ねながら制作を追及し生活の中で使用するという特徴を持つ。思いが意味ある形や色を生み、完成した作品は生活の中で意味あるものとなる。表現や鑑賞活動が学校の教室内で完結するのではなく、生徒の生活と関連性を持たせることは重要な視点であると考える。

似た性質を持つ題材は、小学校でも存在する。例えば、生活を彩るという視点からは、生活科（低学年）で育てた朝顔を用いてクリスマスリースづくりをおこなったり、秋に収穫した木の実などで玩具や飾りをつくったりすることがある[11]。中高学年の図画工作科では、ランプシェードづくりや木彫による額縁づくりやオルゴールづくりなどが挙げられる。

さらに、日本の伝統文化という視点からは、小学生の道徳の内容項目として「Ｃ　主として集団や社会との関わりに関すること」の中で〔郷土の伝統と文化の尊重、郷土愛する態度〕［我が国の伝統と文化の尊重、愛する態度］の育成が示されている。

我が国には、日本人が誇るべき伝統や文化が数多く存在する。それらは長い間受け継がれ、外国の人々の心を惹き付ける魅力あふれるものも多い。しかし、生活の便利さと引き換えに、そのよさや魅力を手放してきた一面もある。水引制作を通して、日本の伝統文化を守り、継承していくことの大切さ（思い）を体感させたい。そのために、小学校での学びとの連動性を考慮し、「生徒の思い」と「日本の伝統文化（水引）」と「生活の中で使用する」ことを関連づけるような題材構想とした。

３）中学３年間の学びのつながり

本実践の対象である３年生の年次指導計画を表２に示した。３年間継続して、生徒が豊かに発想や構想し、美術に対する見方・考え方を深めるために、自ら主題を生み出す授業過程を重視してきた。例えば、１年生のＡ表現（1）では、一版多色刷り版画の制作（「見ること・彫ること・刷ることへの挑戦～一版多色刷り版画～」）で初めて主題を持たせる題材を設定した。その後、「伝統をつなぐ（凧）天まで届け！ぼくのわたしの夢」を設定した。始めは主題という言葉は聞き慣れず、馴染まない生徒もいた。しかし、一貫して題材を組むことで、生徒の主題を生み出すことに抵抗が少なくなり、自分の表したいことを考えられるようになっていった。

年次指導計画では、前述した４つの視点を基に、表現と鑑賞を相互に関連させた活動を設定し、「個の思いを引き出す指導支援の検討（対話など）」や「表現する際の知識や技能の習得のあり方」などについて継続的に検討してきた。豊かに発想・構想するためには、自分の表したい主題を持つことと合わせて、表現するための知識・技能の習得も必須となる。表現へとつながるように、鑑賞活動において、知識及び技能の視点から学びを深められるように内容を設定してきた。

このように、３年間を通して、題材のつながりや指導支援について一貫性を持たせつつ、年次計画を設定した。

４）題材内での学びのつながり

本研究では、題材内での学びのつながりも意識している。年次指導計画においても表現と鑑賞の関連性を重視しているが、題材内でも表現と鑑賞を相互に関連づけながら、生徒の資質・能力の育成を目指している。本題材では、「鑑賞→表現→鑑賞」という活動の流れになっている。鑑賞を通して、日本の美の造形的な特徴を捉えることを理解し、その学びが表現で発揮される授業構想とした。表現活動において、「思考・判断・表現」では表現の意図と創造的な工夫などについて考えつつ構成を工夫し心豊かに表現すること、「主体的に学習を取り組む態度」では主体的に表現や鑑賞に取り組もうとすることを期待した。

（７）指導計画及び各時の目標と内容

本題材は全８時間で構成されており、第３学年の11～３月上旬の３年生最後の題材として実施したものである。本題材では表現と鑑賞の活動が相互に関連づけられている。２年間の研究の成果として、生徒の表現及び鑑賞の力が相対的に高まるとアンケートから考察されたことから、本題材でも学びの連続性を意識し、鑑賞後に表現に取り組み、その後、鑑賞に取り組むという構成とした。さらに、本題材は最後の題材であることから、授業内での作品鑑賞だけではなく、生活と美術のつながりについて実感するために、家庭での作品展示の機会を設定した。本題材の指導計画を表３に示した。以下に、授業目標と内容を説明していく。

１）身近な地域の美術文化を理解しようとする態度（主体的に学習に取り組む態度）の育成

本研究では、継続して主題を生み出すことを重視し

表２　2018 年度入学生　年次指導計画

Ａ表現（１）	Ａ表現（２）	Ｂ鑑賞	コロナ対応で休校

	１年（４５時間）
1	オリエンテーション・ゆるキャラ
2	鉛筆の使い方
2	ポスターカラーの使い方
4	レタリング＆絵文字に挑戦!
1	日本の美 ～風神雷神図屏風を読み解く～
1	日本の美～海野光弘の版画～
10	見ること・彫ること・刷ることへの挑戦 ～一版多色刷り版画～
1	版画鑑賞会
2	和凧の世界
13	伝統をつなぐ（凧） 天まで届け！ぼく・わたしの夢
1	和凧鑑賞
7	透視図を用いたデザイン

	２年（４５時間）
2	点描で描こう～身近な人～
1	生活とつなぐ 学校生活に必要！？ピクトグラム
5	校内に必要なピクトグラムを 考えよう
1	校内にピクトグラムを貼ろう
5	夏野菜の連続模様～消しゴムハンコで夏を楽しむうちわをつくろう～
8	未来の自分に送るメッセージ ～モダンテクニック～
1	日本の美～紅白梅図屏風～
1	静岡の美～芹沢銈介の魅力～
10	樹花鳥獣の世界 ～扇子に新たな対を求めて～
1	対の美鑑賞会
6	季節を感じる　和菓子のデザイン ～発見・発信　地域の魅力～
5	~~和菓子　鑑賞会~~ コロナ対応のため休校

	３年（３５時間）
1	休校中課題 自然物から文様を生み出そう
3	休校中課題 季節を感じる　和菓子のデザイン ～発見・発信　地域の魅力～
3	季節を感じる　和菓子のデザイン ～発見・発信　地域の魅力～
1	和菓子　鑑賞会
1	作家はなぜ自画像を描くのか？ 静岡の作家～石田徹也～
11	こころもよう ～１５歳の今を切り絵に～
1	切り絵　鑑賞会
1	水引って何だろう？
8	おもいを表す　水引
1	水引　鑑賞会・美術の力とは

*２年次３学期、３年次１学期、コロナウイルス感染症拡大予防のための休校となり、実施できない題材があった

てきたため、生徒達は主題を持つことに抵抗がなくなり、それぞれの思いを膨らめて制作する力が身についてきた。ただ、導入後のアイデアを生み出す段階では、つまずきを感じる生徒が見られる。本題材においても、こうしたつまずきが想定されたため、生徒の認知度が高かった祝儀袋・不祝儀袋を用いて鑑賞を行うことから始めた。

第１時（鑑賞活動）では、なぜ水引が伝統工芸として大切に継承されているのか、日本人の「包む」「贈る」「飾る」などの行為からその意味や魅力について考える学習課題を設定した。鑑賞活動を通して、「美術文化の継承と創造」について考え、日本文化の良さ（水引の魅力）を改めて感じる機会とした。さらに、伝統文化は、時代とともに少しずつ形を変え、新たなものを取り入れていくことにも理解を深め、表現活動への関心を高めていった。鑑賞では、モチーフの選択や組み合わせ方などの構成も必然的に考えることになる。新たな形を生み出すことは難しいことだが、自分なりの色や形と出会ったり、表現することの面白さが味わえたりするような授業を展開するように心掛けた。こうした過程を通して、地域や日本の美術文化を理解しようとする態度や主体的に学習に取り組む態度の育成の育成を目指した。

２）豊かに発想し、構想する力（思考・判断・表現）と形や色彩などの造形要素に関する知識（知識・技能）の育成

第２時では、第１時の鑑賞で学んだ水引の形や色の意味や魅力も踏まえつつ、本題材のテーマである「３年間の自分のおもい、未来の自分をおもう形」を表現するための「水引の可能性」を模索した。その際、何度も試行錯誤することを重視した。試作を行う過程で、「主題を生み出すこと」や「飾る場所や飾り方」、「飾りたい時期」なども踏まえ構想した。水引は材の性質上、一度形を変形したら跡が残ってしまうため、試作段階では少しの水引でいろいろな形を試すようにした。試作後には鑑賞活動を設定し、試行錯誤の過程を共有させ新たな気づきを促した。共有では、「結ぶ」だけでなく「編む」「ねじる」「曲げる」「巻く」「まとめる」「丸める」「さらに結ぶ」など水引の変形方法と意味を確認した。さらに、手順表の掲示などを行い、教室環境の整備にも気を配った。

第３時では、前時に学んだ変形の仕方や参考作品をもとに、自分の思いを表す形のアイデアを練っていった（アイデアスケッチの実施）。アイデアを練る段階では、生徒同士や教員との対話を重視した。

第４～６時は、全体のイメージを捉えながら主題に合わせて水引の形を工夫し表していった。昨年までの課題として、表現する際の知識や技能の習得のあり方が挙げられていたため、思いを表現する際の知識や技能の活用について考えさせた。思いを強調する場合、水引以外の素材を加えることで、表現の幅が広がることにも気づかせていった。授業過程では、意図的に、小集団の関わりを持たせ、思いを深めたり方法を共有したりする場を設定した。

こうした過程を通して、豊かに発想し、構想する力

表３　題材の指導計画

＜時間数：授業名＞□学習内容□	評価規準□
＜第１時：水引って何だろう？＞□ 水引の歴史や意味を鑑賞し、なぜ水引が伝統工芸として大切に継承されてきたのか、日本人の「包む」「贈る」「飾る」などの行為からその魅力について考えよう。□	造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができたか。（思考・判断・表現□鑑）□
＜第２時：水引の可能性を探ろう＞□ 自分の思いを水引のかたちであらわせるように、いろいろな変形を考え、水引の可能性を探ってみよう。□	自分の心情や未来に向けての思いを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現活動に進んで取り組むことができたか。（主体的に学習に取り組む態度□態表）□
＜第３時：中学３年間やの未来を思い、表したいことを基にアイデアスケッチを考えよう＞□ 前時に考えた変形の仕方や参考作品をもとに、自分の思いを表す形のアイデアを練っていこう。□	水引の形や色彩の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができたか.（思考・判断・表現発）□
＜第４～６時：全体のイメージを捉えながら、水引の形を工夫してあらわそう＞□ 形や材料、光などが感情にもたらす効果や、自分の意図に合う表現方法や造形的な要素を工夫して表そう□	形や色彩、材や光などがもたらす効果や、造形的な要素などを基に、主題や美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解できたか。（知識・技能□知）□ 水引や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追究して創造的に表すことができたか。（知識・技能技）□
＜第７時：自分の感じたことや表したかったことを紹介しよう＞□ 全体や部分、形などに着目して、自分や友達の作品の主題や表現の良さや美しさを感じ取ろう。□	造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができたか。（思考・判断・表現鑑）□
＜第８時：自宅に飾った自分の作品をまとめ、紹介し合おう＞□ 今の自分、未来の自分を思う水引を家に飾り、自分の生き方との関わりで美術を捉え見方・感じ方を深めていこう。□	水引の造形的なよさや美しさを感じ取り、心情や表現の意図と工夫などについて考えるなど見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組むことができたか。（主体的に学習に取り組む態度□鑑）□

（思考・判断・表現）と形や色彩などの造形要素に関する知識（知識・技能）の育成を目指した。

３）制作過程の試行錯誤を大切にし、よりよいものを追究しようとする態度（主体的に学習に取り組む態度）の育成

第７時では、完成した作品を紹介し合う鑑賞の時間とした。自他の水引の形に込めた主題と表現の工夫を紹介し合い、作者の心情や創造性などを味わい感じ取ることを重視した。その後、制作した作品は自宅に持ち帰り、飾った後、撮影することにした。撮影した写真データは、Google classroomを活用して取りまとめた。その後、飾った作品の写真に作品紹介の文章を加え、自作品の紹介レポートを作成した。レポートには自宅で共に鑑賞した家族からの感想も加えた。２年の扇作品の時と同様に、自宅で鑑賞する機会を設け、創造した作品が自分の生活を彩り豊かにしてくれることを認識するきっかけとした。

第８時は、紹介レポートをもとに、作品の再鑑賞の時間とした。これまで学んだ視点（発想、構想、知識、技能など）から鑑賞に取り組み、ワークシートを効果的に用いて、自分の思いや制作の工夫を具体的に言語化し、他者と意見共有を行うようにした。自宅に飾った水引を鑑賞することで、改めて自分の生き方を考え、生活の中で生きる美術や伝統工芸などの継承と創造について考える場とした。

こうした学習過程や方法を通して、制作過程における試行錯誤を大切にし、よりよいものを追究しようとする態度の育成を目指した。

５．成果と課題

本実践の成果と課題について考察をおこなう。昨年から引き続き、生徒ＡとＢ（以下、ＡとＢと記す）について分析を行い、その後、全体に実施した事後アンケート[12]について分析を行う。ＡとＢは、入学時から美術に対して苦手意識を持っている生徒であり、１年次より継続観察している。

（１）Ａの変容

Ａは、自信がないためか表現での作品も小さめで主体的に活動に取り組む姿はあまりみられない。しかし、３年間の学びのつながりを通して、表現において主題を自ら決定し、試行錯誤する姿が徐々に見られるようになってきた。地域や生活の中に美術が溢れていることに気がついたことで、Ａの表現と鑑賞活動に対する姿勢が少しずつ向上しており、興味に繋がっていると感じている。Ａは、主題やアイデアを練る時間、なかなかアイデアが生まれず困るなど、思いがあってもアイデアを形に表すことが難しく、表現する手が止まることがよくあった。これまでも、美術科で育成すべき資質・能力の内、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」について、特に重点的に指導支援を要すると考えてきた。前報[4]では、Ａは主題を深め（思考・判断・表現）表現への意欲が高まっていることが考察されたが、一方で、主題をもとに制作する過程（知識や技能など）で苦戦した。

本題材のテーマは「３年間の自分のおもい、未来の自分をおもう」である。本題材の作品のアイデア段階では、考えようとする意欲はあるもののしばらく悩んでいた。Ａはサッカー部に所属していたので、アイデアスケッチには、サッカーのボールをイメージする丸い形のみを小さく描くだけであった(図６：左)。主題を検討する過程では、例年同様、個別指導（対話など）を重視してＡの思いに寄り添うようにした。主題を検討していく過程で、教員との対話を通して、「未来へ挑む勇気と希望」と決定し、花言葉（情熱や勇気）から花を調べていた。その結果、円の中に星型や花の形を描き加えていった（図６：中央及び右）。アイデアスケッチに時間はかかったが、主題と表現したいことが明らかになってからは、友達や教員に結び方（表現方法）を教えて欲しいと自分から声掛けする姿が見られた（図７：左）。自ら質問するＡの姿は、本題材（制作）への意欲が生まれたことを示しているといえよう。他者との関わりの後は、自ら制作を進めていこうとする姿勢も見られた。

Ａの事後アンケートや作品の解説からは、制作は「大満足」であったと記載しており、「水引の形の多様性を駆使して、自分の思い通りの形を表現できた」から、自分の中に「自分なりの形を考えたり、練った

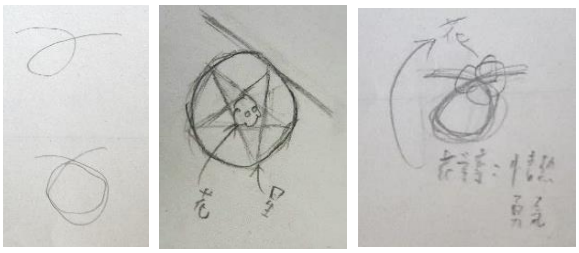


図６　Ａのアイデアスケッチ

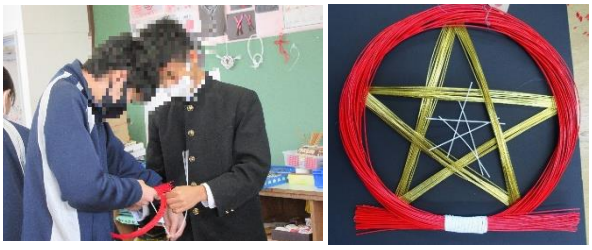


図７　Ａの制作過程と完成作品

りしていく力がついてきた」と答え、制作が満足のいくものであったことが示された。今回、アイデア通りの作品になって、最終授業（第８時）では「思い通りの形ができた」「家に飾ってみて、生活リズムに変化があったわけではないが、自分の部屋に戻ったときに毎回気分が上がる」などと発言する姿も見られた。さらに、発想に関しては以前よりもその幅が広がったと回答しており、影響した手立てとしては「友達との対話」と「教員からのアドバイス」「結び方の資料や本」を挙げていることからも、アイデアの段階でのＡとの対話や表現の価値づけ、表現方法の提示などが、Ａの思考を深めたり、表現への意欲を高めたりしたと考えられる。本題材では、主題を生み出すことに加え、主題をもとにアイデアを練る段階でも成長が見られた。

Ａは、これまで主題を生み出すことやそれを作品にする過程でつまずきを感じていたが、教員や友達との関わり（対話など）を通して解決策を見出していた。学習過程における人との関わり（対話など）の重要性を改めて感じる表れとなった。また、技能面の課題を乗り越えていくには、表現方法の極め細やかな指導支援の充実が重要であった。

「美術の授業は必要か」という質問に対して、１年の頃は「大切ではない」と答えていたＡだが、題材後のアンケートでは「自分の思いを言葉以外で伝える手段にもなるから、世界中どこでも美術は通じるから大切」と回答し、３年間の学びを通して、変容したＡの姿をみることができた。

（２）Ｂの変容

Ｂは、アイデアを生み出すことや構想を練ることに苦戦しがちであり、毎回活動が遅れる傾向にある。一方で、これまでの題材において、最後まで投げ出すことなく諦めずに表現に取り組むことができ、題材での学びを次の題材で生かす姿や制作を追求する姿勢もみられる。「主体的に取り組む態度」では１年の頃より成長を感じているが、今年度も、継続して「思考・判断・表現」について、特に重点的に指導支援を要すると考えた。

第２時の「水引の可能性」を模索する授業では、水引を手に取り、丸くしたり、近くの友達に聞いて編んでみたりしていた。初めて扱う素材のため、形が思うようにできなかったが、編むことに着目した後は、友達の制作からヒントを得て、三つ編みをして紐を作成したり、その過程では九本で編むと紐が丈夫になったりすることを発見した（図８）。それを利用して更なる形（球形）の追及を行った（図９）。丸い形を使用

図８　Ｂの制作過程

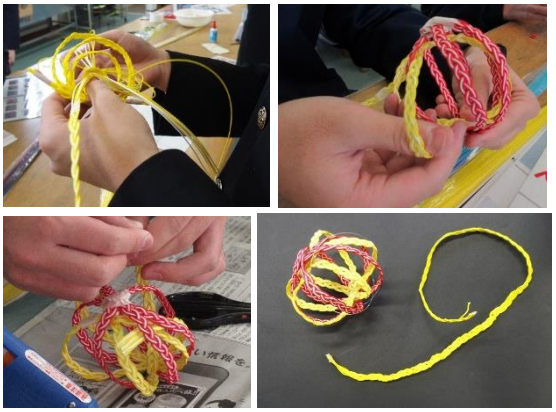


図９　球形を追及するＢの様子

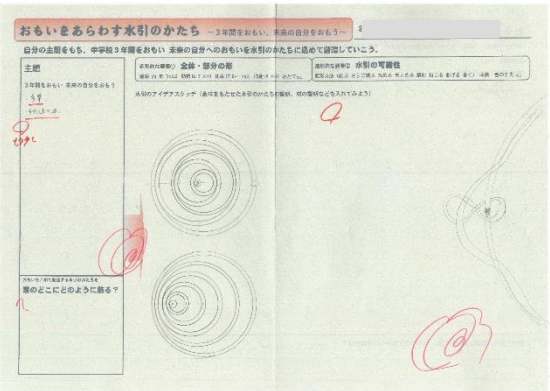


図 10　Ｂのアイデアスケッチ

し、球体にするためにはどのように工夫すれば良いか試行錯誤した。

第３時のアイデアスケッチでは、主題を「『えん』が重なるように」とし、円の形を重ねて表現しようと考えて、図 10 のようにアイデアを３つ考えた。主題の「えん」を敢えて平仮名で記載したのは、「縁＝周囲の人とのよい縁」や「円＝良好な関係＋お金」の２つの意味を込めたためと説明した。３年間の学びを通し、地域のひと・もの・ことから日本の美へと鑑賞をつなげて実施してきたことも、Ｂの主題の設定を深める手立てになったと感じる。

本制作では、第１・２時の試行錯誤をもとに、友達と協力して、三つ編みを何本も制作していった。始めは選んだ黄色（単色）で編んでいたが、次第に他の色を混ぜて制作する姿が見られるようになった。水引に

黄色を選んだのは、「太陽のように明るく、エネルギーがみなぎった色だから」と説明した。また、造形的な要素を意識し、作品のアクセントとなるように、黄と白、赤と白の色の組み合わせ、試しながら「『えん』が重なるように」と祈願し制作を展開した。

制作カードには、アイデアスケッチの難しさを指摘する姿も確認され、試行錯誤していく中で「なんとなく色んな形を作っている内に、やろうとしていることが分かった気がします」と記載があった。球形ができ、上から吊せるようになったので、飾りやすいところ、且つ、視野に入りやすいところに飾ろうと、自室のカーテンレールの端に飾った（図 11）。

Ｂの事後アンケートでは、中学の授業最後の制作は「満足」であり、水引の形を見立てたり、友達の作品を鑑賞したりすることが自分の学びになっていたことが分析できた。発想が広がる手立てとしては、「友達との対話」「教員からの技術指導・支援」「美術室の掲示物（作家の作品写真を含む）」がよい影響を与えたことがアンケートより明らかになった。本題材では、昨年度の成果と課題を踏まえ、豊かに発想や構想を広げたり深めたりするために、他者との関わり（対話など）を重視した。教員が指導を行ったり、教員や友達との対話活動を通して自分の作品（主題や表現方法の関連性など）に向き合う時間を設定したりしたことが、Ｂの発想や構想の広がりに影響を与えたと考えられる。Ｂは、教員や友達との関わり（対話など）をきっかけに自身のアイデアを広げていった。

本題材の材料である水引は、90 ㎝と長く、扱う際に友達に持ってもらったり、変形方法を見せ合ったり、教え合ったりしたことも、Ｂにとって表現の可能性を広げるきっかけとなった。Ｂの積極的な学びの姿勢は、上記の指導に加え、鑑賞と表現を相互に関連づけた題材構想も影響したと考えられる。主題を生み出し、それをアイデアスケッチしている過程に苦手意識を持っていたＢにとって、鑑賞活動を通して、水引の知識や技能（意味や変形方法など）を学び、水引の可能性を理解した上で、表現に生かしていくプロセスが制作への意欲を高めたといえる。

図 11　自室に作品を展示している様子

また、自宅に作品を飾ることに関しては「やや生活に変化があった」と回答しており、その理由として「自分のことについて表す最後の題材だったからか、思いも形にのせて表現をすることができ、主題に沿った形になりました。家に飾り、ちょっとずつ視界に入ることで、美しさというものを感じられ、心にゆとりがうまれたような気がする。」と述べている。本題材を通して、自宅に作品を飾ることで、作品が自分の生活を彩り豊かにしてくれることを認識するきっかけになったといえる。

「美術の授業は必要か」という質問に対して、１年の頃は「アイデアが浮かんだり、創造したりするのは、１つのスキルで（会社とかプレゼンとかでも役立ちそうだから）、美術はやや大切である」と回答した。本題材後のアンケートでは「美術は生活の中で必要かと言われるとそうではありませんが、だからこそやる必要があると思います。必要なことしかしなければ、人は必要なことしかできなくなるから、やや大切。」と回答した。このことは、「自分が必要ではないと思うことにもチャレンジすることで、新たな創造の可能性がある」とＢが気づいていると解釈することができる。「やや大切」という認識には変化はないが、その内容には変化が見られ、３年間の学びを通して、変容したＢの姿をみることができた。

（３）他生徒の実態

昨年までに、全体的に生徒達は主題を明確に持った上で表現活動に意欲的に取り組めるようになってきており、９割以上の生徒が「発想及び構想」の力がついてきたと自覚できるようになってきた（図２）。昨年度は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」について、重点的に指導を行った。中でも、地域のひと・もの・こととのつながりにおいて、地域の美術館や作家との出会いを繰り返し設定してきた結果、地域の美術館に興味を持つ生徒や、日本の美術作品に関心を示す生徒が増えてきた。また、昨年までの報告では、主題づくりと同時に知識や技能面の資質・能力の育成のバランスの重要性が示され、教員の個別指導や教員や友達との関わり（対話など）が生徒のアイデアを広げる結果となっており、本題材でも継続して指導を行った。

本題材では、ＡとＢと同様、水引を初めて手にし、表現の技能面に課題を感じている生徒が多かった。ただ、３年間の集大成となる題材への意欲や新しい試みへの挑戦、知的好奇心などが生徒達の学ぶ意欲をより向上させた。事後アンケートでは、94％の生徒が水引

図 12　生徒作品

美 術 科 で育成を目指す資質・能力

目標：表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

美術科テーマ：造形的な見方・考え方を働かせ、創造の喜びを味わう生徒の育成　～つながりを重視した授業の工夫～

育てたい生徒像：造形的な見方・考え方を働かせ、表現を追求する活動を通して、創造の喜びを味わう生徒

観点	中学3年間の学びのつながり			研究の視点		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	つながりを重視した授業の工夫	授業過程における支援の工夫	
応用	・形や色彩などの表し方を身につける ・造形的な要素を知り、生かす ・自分の表現意図に合う新たな表現方法を材料や用具の使い方、活用の仕方などを考えて表現する ・制作手順や完成の見通しをもって表現する ・形や色彩、材料、光などがもたらす性質や感情を理解する ・形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえる	・主体的に主題を生み出す ・対象を深く見つめる ・単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的構成を工夫する ・豊かに発想し、構想する ・心豊かに生きることと美術との関わりについて考える ・自他の美意識、美的価値観について考える	・主体的に楽しんで美術活動に取り組み、美術を愛好する態度を育む ・制作過程の試行錯誤を大切にし、よりよいものを追究する ・心豊かな生活を創造していこうとする ・生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる ・日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深め、諸外国との相違、共通点に気づき、美術を通して国際理解を深める ・美術文化の継承と創造への関心を高める	・生活社会とつながる ・行事とつながる ・地域とつながる ・伝統とつながる ・未来につながる	・造形的な要素を取り入れた表現と鑑賞のつながり ・思いを込め、主題をもち表現することへのつながり ・学びの形態の工夫 ・個への支援 ・掲示物の工夫	3年
	・形や色彩などの表し方を身につける ・造形的な要素を知り、生かす ・意図に応じた材料や用具の使い方、活用の仕方などを考えて表現する ・制作手順や完成の見通しをもって表現する ・形や色彩、材料、光などがもたらす性質や感情を理解する ・形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえる	・主体的に主題を生み出す ・対象を深く見つめる ・単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的構成を工夫する ・豊かに発想し、構想する ・心豊かに生きることと美術との関わりについて考える ・自他の美意識、美的価値観について考える	・主体的に楽しんで美術活動に取り組む ・美術を愛好する態度を育む ・制作過程の試行錯誤を大切にし、よりよいものを追究する ・心豊かな生活を創造していこうとする ・生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる ・身近な地域、日本の及び諸外国の美術文化を理解する	・生活とつながる ・地域とつながる ・伝統とつながる	・造形的な要素を取り入れた表現と鑑賞のつながり ・思いを込め、主題をもち表現することへのつながり ・学びの形態の工夫 ・個への支援 ・掲示物の工夫	2年
基礎	・形や色彩などの表し方を身につける ・造形的な要素を知る ・意図に応じた材料や用具の使い方、活用の仕方などを考えて表現する ・制作手順や完成の見通しをもって表現する ・形や色彩、材料、光などがもたらす性質や感情を理解する ・形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえる	・主体的に主題を生み出す ・対象を深く見つめる ・全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫する ・心豊かに発想し、構想する ・自他の美意識について考える	・主体的に楽しんで美術活動に取り組む ・美術を愛好する態度を育む ・制作過程の試行錯誤を大切にし、よりよいものを追究する ・生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる ・身近な地域、日本の及び諸外国の国の美術文化を理解する	・地域とつながる ・伝統とつながる ・小学校での学びとつながる	・造形的な要素を取り入れた表現と鑑賞のつながり ・思いを込め、主題をもち表現することへのつながり ・学びの形態の工夫 ・個への支援 ・掲示物の工夫	1年

図 13　美術科の研究構想図（目標およびテーマ、学びのつながり、研究の視点）

の制作について「大満足・満足」と回答した。９割以上の生徒が、本題材の制作（図 12）に満足している結果となった。満足の理由としては、「全体的に思い通りに表現できたから」（56 人）、「水引の色を選べられたから」（55 人）、次いで前年度の課題であった「思いを表す水引の形が上手くいったから」（38 人）、「家に飾ったことで効果があったから」（36 人）、「水引の色を工夫できたから」（33 人）、「友達の作品を鑑賞することが自分の学びになったから」（30 人）となっている。生徒の題材への満足度には、主題を生み出し、それを色や形で表現できることや他者との関わり（学校や自宅での鑑賞活動）などが大きく関連している結果となった。

水引の対するイメージの変化については、96%の生徒が「とてもよくなった・少し良くなった」と回答した。その理由としては、日本の伝統文化としての重要性を理解したことや込められた意味を知りその魅力を理解できたこと、新たな創造の可能性などが挙げられた。

主題（思い）に関しては、93%の生徒が「表現できた、少し表現できた」と回答した。さらに、「自分なりの表現の幅を広げられたか」に対して 98%の生徒が「以前より広がった・少し広がった」と回答した。影響した手立てとしては、「作家作品の鑑賞」（55 名）や「友達との対話」（46 名）、「美術室の掲示物」（41 名）、「教員からのアドバイス」（39 名）、「友達との作品鑑賞」（34 人）と続いた（複数回答）。昨年度は、表現の知識や技能の資質・能力の向上や課題が制作の満足度に直結している結果となった。本年度も、鑑賞でつけた知識や技能の資質・能力が表現に生かされたと考えられ、主題の表現に鑑賞や他者との関わりが大きな影響を与えている結果となった。教員の個別指導や教員や友達との対話をきっかけに自身のアイデアを広げたという本結果は、昨年同様ＡとＢと同様の傾向を示した。主題づくりと同時に表現における知識や技能面の資質・能力の必要性については、前報[4]においても指摘したが、本結果をみてもその資質・能力のバランスが重要であることがわかる。さらに、「この制作で自分なりの形を考えたり、練ったりしていく力は以前よりついてきたと感じるか」の問いに対しては、「以前よりついてきた」（57%）「ややついてきた」（38%）と回答した。全体として、95%の生徒が、「ついてきた」と自覚している結果となった。図２と比較すると、「以前よりついてきた」と「ややついてきた」の値が若干変動しているが、全体としては同様の傾向となった。

６.「つながり」を重視した美術科のカリキュラム

本研究では、教科テーマを「造形的な見方・考え方を働かせ、創造の喜びを味わう生徒の育成」とし、「つながり」を意識した題材開発や授業づくりに着目してきた。それを具現化し提案したカリキュラムを図 13 と図 14 に示した[13]。その特徴は、小学校から中学校・高校へ、身近な地域から静岡・日本・世界へ、更に過去・現在そして未来へとつながり、美術を愛好し、心豊かな生活を創造し、豊かな情操を養っていけるよう４つのつながりや指導支援のつながりなどを意識して構成した。

７．おわりに

これまで１年の頃より継続して、学年最後に「美術の授業は大切だと思うか」という問いを生徒に投げかけてきた。本題材後の回答と、当該生徒が１年の頃の回答を比較した（図 15）。３年間の美術の授業を通して、「美術が大切だと思う」（26%→81%）「やや大切」（53%→19%）、「あまり大切ではない」（１年のみ 16%）と、３年卒業間近の生徒達は「あまり大切ではない・大切ではない」と回答した生徒はいなかった。大切だと思う理由としては、「外面にアプローチすることで、感情など内面も変えられるから大切。いわゆる外用薬だと思う」「実用的に使えることも多くあるし、間接的に人生を豊かにすることも沢山あると思う」「形を想像して、目に見えない所まで考えていく力がつき、何より楽しく、工夫しながらできる」「ただ作品をつくるだけでなく、その過程で自分の今までのことや将来についても考えてきたので、見直すことができる」「美術の時間だけでなく、日常生活でも考えることができ、良い時間であった。考える力、発見する力、発想力が身に付いた」とあった。

こうした感想には、生徒の成長した姿や学びの成果を見ることができる。入学当初は、上手に描くことに価値を感じる生徒が多かったが、３年間の学びを経て、美術の価値は上手い下手の価値で判断できるものではなく、自分の人生や生活や社会を豊かにするものであるとの認識が生まれていることが伝わってくる。また、感想には自身の創造する力について、自覚している指摘も多くあった。

加えて「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」の育成のため、本題材では、自宅での作品鑑賞にも意図的に昨年度より取り組んでいる（図 16）。教室での鑑賞に留まることなく、自宅で鑑賞することで、これまで制作してきた作品と合わせて一緒に飾ったり、年中行事や学校行事に合わせて飾ったり、自分の願いを込めて飾ったりなどの思い思

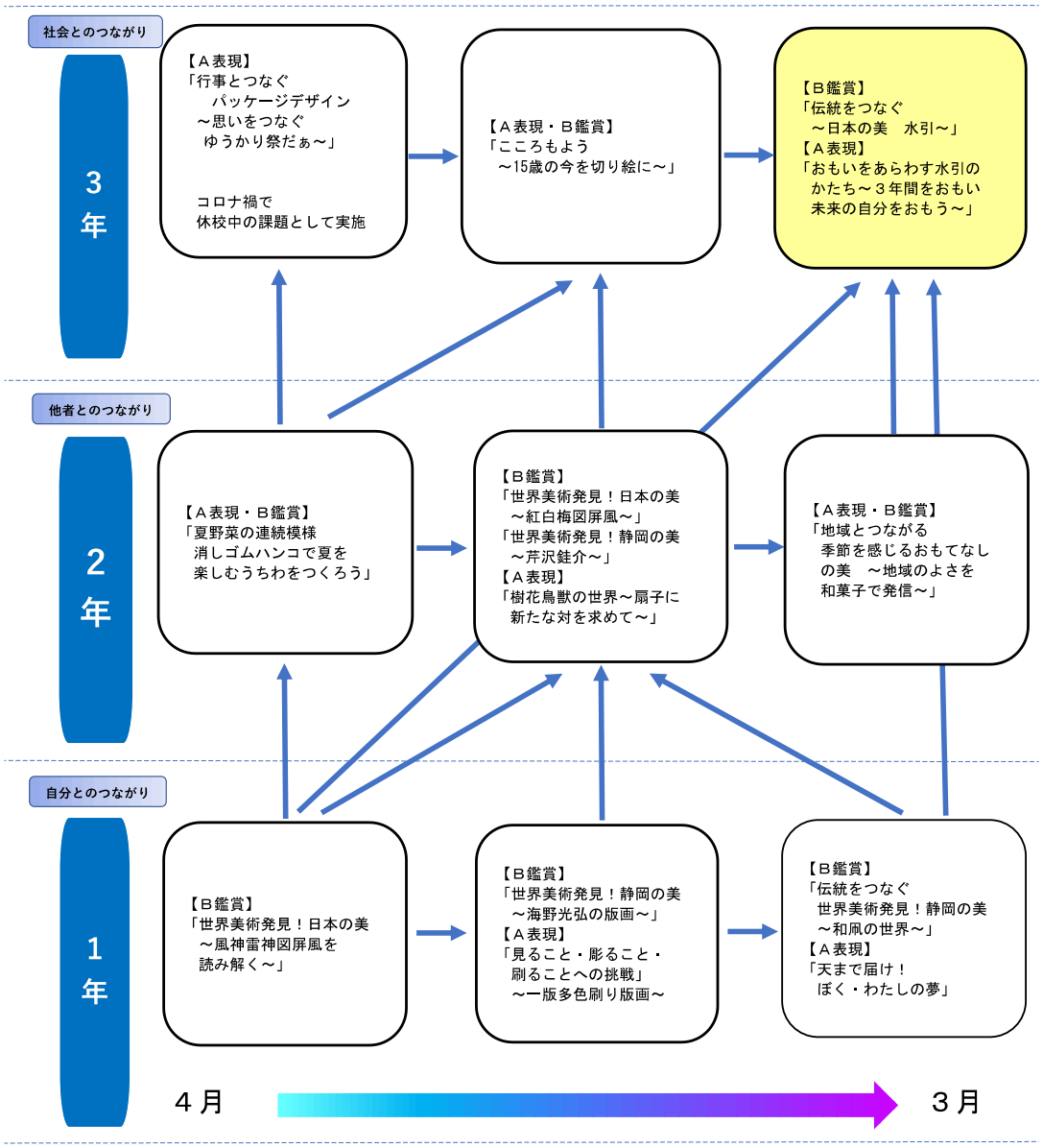


図 14　１年から３年までの題材構成と関連性について

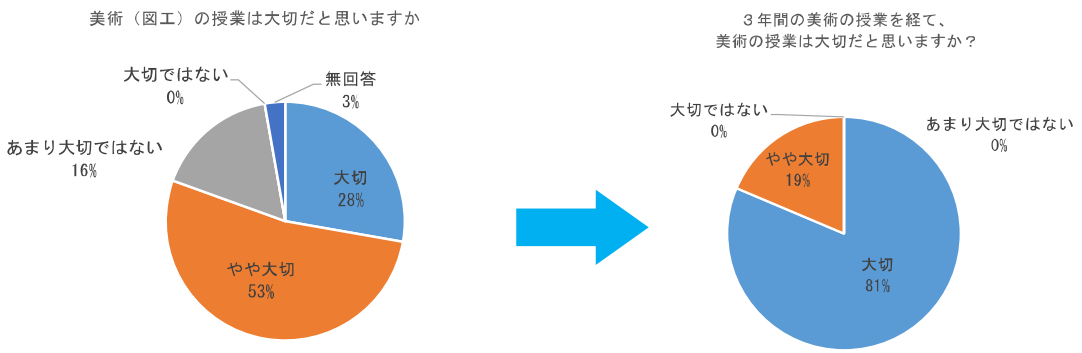
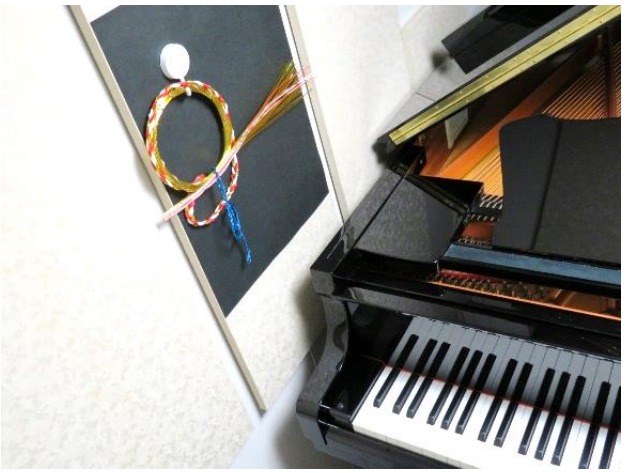


図 15「美術の授業は大切だと思うか」１年（左）、３年(右)

別題材（団扇）と合わせて自室に展示している様子

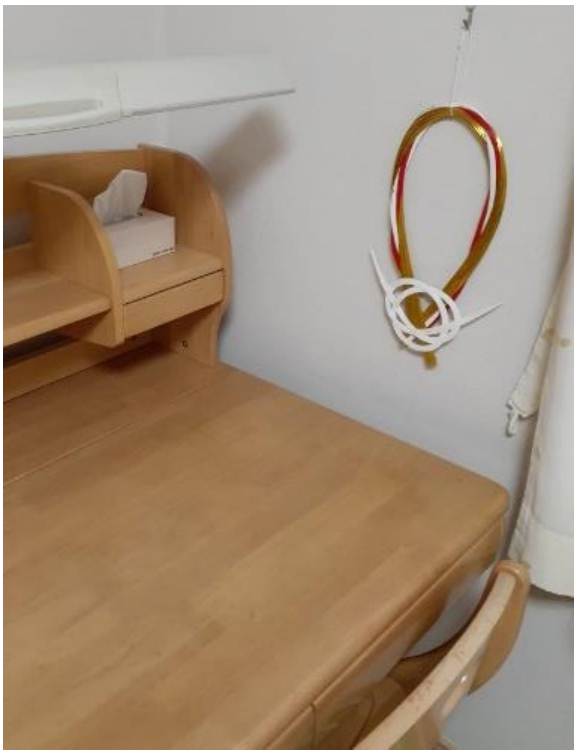
年中行事に合わせて飾っている様子

別題材（扇）と合わせて自室に展示している様子



ピアノの側に願いをこめて飾っている様子

学校行事に合わせて制作した作品



自室の勉強机の横に願いをこめて飾っている様子

図 16　生徒達が自宅で作品を飾っている様子

図 17　手紙に添えられた水引

いの工夫が見られた。実際に、自宅での作品鑑賞（展示を含む）を通して、「生活に変化があった」と事後アンケートで回答している生徒が 84%いた。また、本題を経て実施された附属島田中の卒業式では、例年、保護者への感謝の手紙を生徒が渡すことが慣例となっていたが、当該年度は生徒から手紙に水引を添えたいと申し出があり、手紙に水引を添えることとなった。担当教員にも、同様に手紙が渡されたが、水引が添えられていた（図 17）。それらの手紙には、「美術に対する苦手意識の変容」や「思いをこめた表現の重要性」「創造の奥深さや喜びを感じている姿」「生活に美術を取り入れていこうとする姿勢」「美術と私と生活つながりの面白さ」「ひと・もの・ことを変容させる美術の可能性」などについて、記載されていた。

こうした記載は、３年間の学びを通して、生徒が自ら主題を生み出し創造する力や創造の喜びを自他と共有し味わう力をつけた姿の表れだといえよう。美術や美術文化が全ての人の生き方や生活に関わり、それを豊かにすることを理解した生徒達は、卒業後も、生活や社会と豊かに関わり、新たな価値を創造し続けるだろうし、そうした姿を期待している。

本研究では、３年間にわたり、「つながり」を意識した題材開発や授業づくりに着目し、その成果と課題を報告してきた。今後も、「つながり」を意識した題材開発やカリキュラムの可能性を検討すると共に、家庭や地域と連携した授業外での作品鑑賞などの可能性も検討していきたい。

---

[1] 文部科学省「中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説　美術編」日本文教出版、2018、p. 2、p. 8、p. 25

[2] 同上、p. 28、p. 92、p. 95、p. 133、p. 158、 p . 162

[3] 田丸光恵、髙橋智子「遠州横須賀凧を生かした美術科の題材開発：静岡大学教育学部附属島田中学校での事例研究」静岡大学教育実践総合センター紀要 30、pp. 262-271、2020

[4] 田丸光恵、髙橋智子「地域性や伝統文化を生かした美術科の題材開発:表現と鑑賞を相互に関連させた題材構想」静岡大学教育実践総合センター紀要 31、pp. 335-344、2021

[5] 本テーマには、表現と鑑賞を相互関連させた学習過程を通して、感性や想像力を働かせて様々なことを感じ取ること、新しい見方や考え方に出会い新たな価値を見出すこと、表現したり鑑賞したりする喜びにつなげていくことを大切にしたいという思いを込めている。

[6] 生徒Ａ及び生徒Ｂは、美術に対して苦手意識を感じており、「表現したい」という思いはあるもののアイデアを生み出したり、表現を積極的に追究したりすることに課題があるという実態であった。これは、同学年の生徒の傾向とも重なるものであった。

[7] 対象は第３学年であり、男子 50 名、女子 58 名の合計 108 名であった。

[8] 事前アンケートでは、以下の視点から問いを設定した。「２学期の切り絵制作で自分の力がついたと感じたこと」「２年次と比較して、制作時にアイデアを考えたり、練ったりすることについて（思考・判断・表現）」「水引への興味」「水引の認知」「水引の使用経験」「水引を認知した方法」「水引の使用方法の理解」など。

[9] 水引を使用したことがある生徒の使用例については、「贈り物を包む際に使用したことがある」（12 名）という回答が最も多い値であった。

[10] 田中杏奈「水引で結ぶ　二十四節気の飾り」日東書院、2019、p. 9

[11] 筆者が以前勤務していた小学校での経験を基に記載したものである。

[12] 事後アンケートでは、以下の問いを設定した。「おもいを表す水引のかたちの制作はどうでしたか」「水引に対してイメージは変わりましたか」「自分の主題を表現できましたか」「自分なりの形や色、飾りを練ることは、自分の表現の幅を広げていくことにつながりましたか」「発想が広がることに影響した手立ては何ですか」「この学習で造形的な要素を意識して制作できましたか」「自分なりの形を考えたり、練ったりしていく力は以前よりついてきたと感じますか」「自宅に水引を飾ってみてどうでしたか」「３年間の美術の授業を経て、美術の授業は大切だと思いますか」など。

[13] 図 14 に示している題材の内、本題材を黄色で示している。